



第2回定例理事会の様相

第2回定例理事会開催 要望事項の取りまとめを検討

12月17日、東京都障害者福祉会館（東京都港区）において、第2回定例理事会が開催されました。

議題は、「令和2年度日身連要望事項案の取りまとめについて」。各ブロック・政令市等から提出された要望事項案79件について、どのように取りまとめるか検討を行いました。要望事項案は、まず、1月31日に開催される、日身連組織体制強化及び障害者施策等に関する検討委員会において、要望内容の整理を行い、その後、正副会長会で内容を確認し、中央省庁等へ提出することが承認されました。

その他、報告事項として①会長および常務理事の職務執行状況について②社会福祉活動助成事業（生協助成金）配分決定について③日身連事業活動及び委員会等の開催状況についてが、それぞれ報告されました。なお、次回理事会は3月9日に開催される予定です。

日身連

発行所
社会福祉法人
日本身体障害者団体連合会
(中央障害者社会参加推進センター)
発行人 阿部 一彦
東京都豊島区目白3丁目4の3
ディアダックビル4階
TEL03-3565-3399(代)
FAX03-3565-3349
http://www.nissinren.or.jp
Japanese Federation of
Organizations of the
Disabled Persons (JFOD)
年間購読料 正会員1部 300円
非会員1部 1000円



新年のご挨拶

社会福祉法人日本身体障害者団体連合会

会長 阿部 一彦



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
日頃より日身連の活動に対し、特段のご理解とご支援を賜り深く感謝申し上げます。日身連は、全国の加盟団体の皆さまとともに、時代に応じてさまざまな活動を展開してきました。その活動は多くの中央障害者団体との連携のなかで、そのまめ役として、法制度の成立や改正に主体的にかかわり、また、国際的な動きに応じた取組に努めてまいりました。また、近年の大規模災害の深刻さから減災・防災や避難支援に対する対策にも注視し、誰もが安心安全に暮らせる環境整備に向け働きかけていきたいと思います。

さて、私たちの活動を進める上で注目していることがあります。2017年2月に閣議決定された『ユニバーサルデザイン2020行動計画』です。これは、障害者権利条約を踏襲し、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に策定された「心のバリアフリー」と「ユニバーサルデザインの街づくり」を柱に、障害者が参加し作られたものです。加えて、計画の実効のプロセスを検証するための評価会議が障害者参加のもとで設置されました。このことは極めて重要な意義を持ち、私たち障害者団体の活動を後押しする大事なツールともなり得るものです。

さらに、日身連が活動を拡げることの強みに、市町村を網羅した全国的な組織力をもっているということがあります。昨年、加盟団体の皆さまのご協力を得て、地域に障害理解を拡げる実施者養成のための『心のバリアフリー啓発プログラム研修』を全国6カ所で開催しました。これは、全国の地域と繋がりのある日身連のネットワークだからこそ実施できたことだと感じています。

こうした地域での活動との連動を視野に、日身連の活動の発展にむけて積極的に取り組んでいくことが必要だと考えています。それは、障害に対する社会の関心が一層高まる今、共生社会の実現に向け、政府への働きかけを行う一方で、加盟団体の皆さまと連携強化し、地域の特性を踏まえながらも格差のない地域社会づくりに、積極的にかかわっていくということです。日常生活や社会生活において、さまざまな社会的障壁（バリア）を体験している私たちだからこそ、多くの人々、企業、関係団体、関係機関や行政組織を巻き込んで地域を変えていける役割を担えるのではないのでしょうか。

本年は、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の年を迎えます。また偶然にも、「障害者権利条約」の国別審査の年にもあたります。「私たちのことは私たち抜きにきめなくて（Nothing about us, without us）」、これは障害者権利条約をめぐって使われてきた言葉ですが、私たち自身の活動の重要性を言い表しています。この考え方をしっかりと持ち、共生社会の実現を目指し、障害者団体が主体的にかかわり、企業と行政が一体となって取り組む姿勢を、東京オリパラのレガシーとして2020年以降に継承させ、互いにつながり支えあう社会文化が定着するよう、さらに取り組んでまいります。

結びに、すべての皆さまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げますとともに、今後とも、日身連の活動に対しご支援賜りますようお願い申し上げます。